



東地裁総第526号

令和4年3月2日

山中理司様

東京地方裁判所長 平 木 正 洋



司法行政文書開示通知書

令和2年12月6日付け（同月7日受付）で申出があり、同月7日付けで補正が
されました司法行政文書の開示について、下記のとおり開示することとしましたの
で、通知します。

記

1 開示する司法行政文書の名称等

- (1) 令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書（片面で4枚）
- (2) 令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書（フォローアップ用）（片面
で1枚）

2 開示しないこととした部分とその理由

- (1) 1の(1)の文書には、公にすることにより裁判事務の適正な遂行に支障を及ぼ
すおそれがある情報、公にすることにより情報セキュリティ事務の適正な遂行
に支障を及ぼすおそれがある情報並びに公にすることにより庁舎管理事務及び
警備事務の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがある情報が記載されており、こ
れらの情報は、行政機関情報公開法（以下「法」という。）第5条第6号に定
める不開示情報に相当することから、これらの情報が記載されている部分を開
示しないこととした。
- (2) 1の(2)の文書には、公にすることにより裁判事務の適正な遂行に支障を及ぼ
すおそれがある情報及び公にすることにより情報セキュリティ事務の適正な遂

行に支障を及ぼすおそれがある情報が記載されており、これらの情報は、法第5条第6号に定める不開示情報に相当することから、これらの情報が記載されている部分を開示しないこととした。

3 開示の実施方法

写しの送付

【入力上の留意点】

類似の指摘事項をまとめて分析する場合など、複数の欄をまとめて記載する必要がある場合であっても、セルを結合せずに、同じ内容をそれぞれのセルに入力してください。
その他の具体的な記載方法は別添の入力例を参照してください。

令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書

査察庁	被査察庁	事件種別	査察事項	指摘事項	査察の実施方法	原因分析	事務処理上の改善策	フォローアップ等
東京地裁	東京地裁本庁	民事	事件の進行管理に必要な情報の共有に関する事項	債権部門において、停止事件の進行管理につき、平成29年度の査察で指摘事項となったことを受けて、順次債権者に対する進捗状況の照会が行われたが、その後定期的な照会や照会結果を踏まえた再度の照会が行われていなかった。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において実施状況を確認した。	担当者が決められていなかったため、照会実施の有無は把握しづつ。責任をもって対応すべき認識が、いまのままで放置され続け、ますます処理しにくくなるという状況に陥った。	担当者を割り振り、定期的に、又は案件に応じてしるべき頻りに照会を行って管理することとした。	問題意識はあって取り組むべき課題であることは認識しつつも、照会や担当が定められていないために事実上放置されることがないよう、今後にも担当を定めた仕組みの維持を指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	裁判体の判断を要する事件処理の適正確保に関する事項	裁判官の指示又は裁判官が提供した情報(付図)のうち、明らかに用済み後のものがあつた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	指摘を受けた係は、期日前の打ち合わせを実施せず、打ち合わせに備えて、付図を利用して、指示又は情報提供を行っている。期日前後も、判決書起草までは担当裁判官が当該付図の情報を確認するため廃棄しないよう指示をしていたため、記録に用済み後の付図が貼付されたままになっていた。	上記原因が根のとなり、裁判官の指示により、判決書起草までは廃棄しない取扱いに変更しないが、期日前後の付図は、記録ファイルの後ボケット内に保管することとした。	必要な箇所によりやすく指摘、説明する方法としての手短さゆえに多用される方法である一方、用済み後廃棄が習慣づいていないと懸念されやすい。民事部主任書記官会議等様々な機会を捉えて、用済み後廃棄の徹底に向けた注意喚起を続ける。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	裁判体の判断を要する事件処理の適正確保に関する事項	裁判官への連絡、回答のやり取りをする付図がページの真ん中に貼られており、閲覧時申請があつたときは注意が必要な状況である。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	用済み後廃棄を徹底できていなかった。	付図の貼り方の見直し(不要になった直ぐに削が、貼れない位置に貼るなど)を行った。また、閲覧時申請の際には、全ページを確認することを徹底した。	必要な箇所によりやすく指摘、説明する方法としての手短さゆえに多用される方法である一方、用済み後廃棄が習慣づいていないと懸念されやすい。民事部主任書記官会議等様々な機会を捉えて、用済み後廃棄の徹底に向けた注意喚起を続ける。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	訴訟救助の事件管理について、個々の書記官において記録上で管理するのみで、エクセルを利用して管理していないとのことなので、一貫性や情報共有という観点からも共有のデータで管理すべきである。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において状況を確認した。	これまで、係書記官ごとに適切に処理してきており、記録ロッカーの点検や、確定記録の引継の際に注意してチェックを行うなどしてきたところであるが、やはりそれだけでは当該事務処理のチェックから漏れてしまう可能性もあった。	一覧表による管理や他部署の実態などを参考に改善を検討中である。	主任書記官による業務管理の観点からも、部内全体について進捗状況を把握できる手段を備えることは重要であるから、適切な手段を設けることを促す。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	訴訟救助がされた事件の記録上、電子費用計算書が作成されていないものがあつた。また、取立状況が必ずしも記録上明らかにされているとはいえない事件があつた。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において状況を確認した。	電子費用計算書作成は、作成を怠っていたもの。また、取立状況が記録上明らかにされていないものもあつた。処理中であつたもの。	付図録帳等は、で連絡が取れないこともあり、処理に時間を要していた。任意納付にこだわらず、需々と取立決定等の処理を進めるよう書記官間で確認済み。	主任書記官による業務管理の観点からも、進捗状況を把握して、個々の事件で必要な対応があれば後押しするよう促す。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	事件終了後の納付事務等について、一覧表の作成が検討されたい。また、国庫立寄請求通知書の債権発生通知年月日が空欄のままになっているものがあるため、当該欄を適式に利用するなどして管理をされたい。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において状況を確認した。	債権発生通知年月日欄の記載がないものについては、順次、既済・未済の確認作業を進めている。また、この事項を留意的かつ懸念のないものとするため、訴訟救助付与した案件についての管理簿(訴訟救助付与事件管理一覧表)を都に新たに備え付けることとした。	債権発生通知年月日欄の記載がないものについては、順次、既済・未済の確認作業を進めている。また、この事項を留意的かつ懸念のないものとするため、訴訟救助付与した案件についての管理簿(訴訟救助付与事件管理一覧表)を都に新たに備え付けることとした。	主任書記官による業務管理の観点からも、部内全体について進捗状況を把握できる手段を備えることは重要であるから、今後の管理をもとにして管理するよう指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	上記された事件で確定後に支払決定等すべき事件が把握されていない。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において状況を確認した。	査察の時点では、8月に交代した主任書記官が部の共有フォルダーにある訴訟救助事件一覧表の存在を確認できていなかった。	査察後に訴訟救助事件一覧表の存在を確認したのち、一覧表をアップデートして該当事件を把握することとした。	主任書記官による業務管理の観点からも、部内全体について進捗状況を把握できる手段が維持され、引き継がれるよう指導する。
東京地裁	東京地裁立川支部	民事	その他	1 H30.1.17に終了した事件で訴訟救助により留置されていた訴訟費用の取立手続が行われていないものがあつた。同局内の担当書記官がH30.4に転出。その後後任が他局に異動したため、見かねた主任書記官が引き取ったものの、繁忙のため着手できない状態であつた。当事者が複数で各々経理事由も異なり、按分計算が複雑だったため、主任書記官は内容を把握するのに時間を要した。現在、任意納付を促す会談の計算を行い、送付する書面を準備中とのことであつた。 1 次回の買付回復国庫を3年後に行う予定としているものがあつた。 「であったが、主任書記官だけでなく、庁として対応を行うことも検討すべきである。」。	査察担当者が主任書記官等から聴取した内容をもとに、執務室において状況を確認した。	対応困難な状況を、主任書記官が一人で抱え込む状況となつてしまった。個人の努力に任せざるばかりでなく、複数による検討や対応が考えられてもよかった。	複雑困難な事案では、複数による検討や対応があつてもよい。主任書記官だけでなく、他部署の協力も必要と見做らる。需々と取立決定等の処理を進めることも考えられる。	事案の内容が複雑であったり、でである場合には、担当者が主任書記官であっても、個人の努力に任せざるばかりでなく、組織的対応と捉えて、場合によっては本庁とも情報共有しながら、有効かつ現実的な方法を検討することも考えられる。

令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書

査察庁	被査察庁	事件種別	査察事項	指摘事項	査察の実施方法	原因分析	事務処理上の改善策	フォローアップ等
東京地裁	青森簡裁	民事	その他	和解に代わる決定を行った事件について、予納郵便切手管理施設に、実際に返還する日以前に、同決定が確定すべき日に返還する旨の記載をして、使用記録及び残額額の記載と返還事務担当者の押印をしているものがあつた。事務の適正化及び明確化の観点から、予納郵便切手管理施設の記載及び押印は、予納郵便切手返還事務を実施する日に記載するように是正を求めた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	和解に代わる決定を返還する際に、郵券の返還遅れを防止し、事務処理を一体的に行うために、決定確定後に予納郵便の返還処理を予め準備していたものである。	実際に郵券を返還する日に、改めて郵券額を確認したうえで、予納郵便切手管理施設の記載及び押印を、予納郵便切手返還事務を実施する日に記載するように指導改善した。	記録の記載の意図に沿った処理こそが本来の趣意に合うという意味で「合理的」であることを理解させ、処理に反映させるべく、改めて主任書記官から指導させる。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	別事件の和解案項案が、記録票表紙の後ろに貼られている記録や、労働部への配てん替えのお伺いに関する裁判官メモが第3分限に貼られている記録があつた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	各担当者とチェックリストとのことであつたが、事件記録作成に関する基本的理解、認識と注意の不足と考えられる。	別事件の和解案項案が記録票表紙の後ろに貼られている記録については、記録票紙と事件番号の確認を徹底するよう主任書記官から指導した。 労働部への配てん替えのお伺いに関する裁判官メモが第3分限に貼られていた件については、記録外書面は、記録のバックに入れらるることとした。 事件との書面管理と、事件記録とそれ以外の明確な区別という基本的知識に基づく処理の徹底が定着するよう、まずは主任書記官から記録室等を巡って徹底して指導する。	基本的には主任書記官が記録室側のポイントとして捉え、指導を地道に実施することによる。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	確定記録における郵便切手の巻戻票の取扱いが必ずしも統一されていないように見受けられた。また、保管金受払一覽表を事件記録につづり込む取扱いも必ずしも統一されていないように見受けられた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	各取扱いについて周知、徹底が不足し、またそれらについての指導も十分ではなかった。保管金受払一覽表の綴りこみについては、予納時に印刷したものをそのまま綴っている事実もあった。	主任書記官の記録室側持分の記録ロッカーに入れる際に、返還時の巻戻票を印刷して部控に入れておくことで徹底済み。 予納時に保管金受払一覽表の綴りこみは特に要求されていないことなので、無用な事務はしないようにすることで徹底済み。	可能な限り統一した事務を行うことで、誤りや見落としを防ぐ効果がある中で、統一の目的或いは効果を明確にして、部の運用を定着できるような指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	通って指定事件等の進行が停止している事件について、期日が取り消された後、原告代理人との対応状況について記載した付箋を記録に貼ってあるものの、他の書記官が一読してわかるようにはなっていない記録があつた。休止については記録上明示されていた。エクセルなどを利用して進行状況を入力して管理するなどして、他の書記官との情報共有ができる方を検討する必要がある。	査察担当者が、通って指定等の進行が停止している事件記録とシステム上の情報を対比して確認した。	メモだけではなく、電話録取音や口頭録取音の作成、あるいは経過一覽表を作成するなどして中断等の理由や状況を明確化することの徹底が不足していた。	経過一覽表を作成するなどして中断等の理由や状況を明確化することについて、改めて周知徹底を行った。	通って指定等の進行が停止している事件については、停止の理由や経過などを記録化し、意識して管理しなければ、意味なく長期化することもあるので、記録とともに一貫性や情報共有に優れた方法により管理できる状態にあることがらさしいことを理解させるよう、民事部主任会議等の機会も利用して指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	通って指定事件等の進行が停止している事件の管理について、記録上は、停止の理由や経過が担当者以外の職員でも分かるように明確になっていたが、システム上は、一部の職員にのみ入力している係と特に入力していない係があつた。	査察担当者が、通って指定等の進行が停止している事件記録とシステム上の情報を対比して確認した。	平成30年4月から中断・通って指定一覽表により部内で共有しているほか、事件記録に各自適宜の書式により進行状況を記載しているところ。平成30年3月以前から在席している職員は、一部の職員にも記入入力しているため、係によって状況が異なっている。	平成30年3月以前は部内で共有していなかったところ。現在は一覽表により部内で共有できているため、改善等は予定していないが、4月以降職員構成の変更後に部内で共有方法等について協議することとした。	通って指定等の進行が停止している事件については、停止の理由や経過などを記録化し、意識して管理しなければ、意味なく長期化することもあるので、記録とともに一貫性や情報共有に優れた方法により管理できる状態にあることがらさしいことを理解させるよう、民事部主任会議等の機会も利用して指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	通って指定事件等の進行が停止している事件の管理について、記録上は停止の理由や経過が明確になっているが、システム上の入力はあると出来ている書記官もいれば、古いデータのままの書記官もいる。	査察担当者が、通って指定等の進行が停止している事件記録とシステム上の情報を対比して確認した。	システムへの入力につき、部内で統一のない状態ができていなかった。	定年後、進行停止中の事件については、記録に表示するだけでなく（システム上）及び必要に応じて所屬メンバーが交替する際に、改めてシステム入力についての周知を全員に押し行う。	通って指定等の進行が停止している事件については、停止の理由や経過などを記録化し、意識して管理しなければ、意味なく長期化することもあるので、記録とともに一貫性や情報共有に優れた方法により管理できる状態にあることがらさしいことを理解させるよう、民事部主任会議等の機会も利用して指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	破産手続の開始によって中断された事件において、その理由や現在の状況については明確に記録されているが、その途中経過については明確（定期的に）記載されていない記録があつた。	査察担当者が、通って指定等の進行が停止している事件記録とシステム上の情報を対比して確認した。	指摘された件は、破産事件は破産者委員会期日が破行している状況であったが、担当書記官は前記委員会期日の破産裁判所に委員会期日の結果を通知し、記録表紙に次期期日をメモすることで、同人が不在の際も事件の進行状況が分かるようにしていた。 しかしながら担当書記官は、破産事件が経過しているかどうかが重要であるという認識であったことから、現在の破産事件の状況のみを記録表紙にメモし、これまでの状況を預けていなかった。	定年後、担当書記官に対しては指摘を受けたことを速やかに伝えるとともに、部内の職員に対しても定年後の部会において、指摘された旨を周知した。そして部会では、破産事件に係らず訴訟が中断している事件については、中断の事由及び進捗状況や他の職員が見ても分かるように記録表紙へのメモを徹底することとした。	通って指定等の進行が停止している事件については、停止の理由や経過などを記録化し、意識して管理しなければ、意味なく長期化することもあるので、記録とともに一貫性や情報共有に優れた方法により管理できる状態にあることがらさしいことを理解させるよう、民事部主任会議等の機会も利用して指導する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	通って指定事件等の進行が停止している事件の管理について、各書記官がそれぞれ工夫しているが、統一はされておらず、担当者以外の職員が固くかかる状態にはなっていない。通って指定の運用ごとに部内で統一した扱いを検討された。	査察担当者が、通って指定等の進行が停止している事件記録とシステム上の情報を対比して確認した。	これまで、他々の書記官の事務処理に委ねられ、部内の統一した取り扱いを確立してこなかったことによる。	当事者の死亡、法人の合併、破産による中断等の進行停止事情がわかる部内統一の「進行停止中の事件の記録事項整理」を作成し、進行停止の事由が生じた事件については、この事項整理を記録の表紙に付録に盛り込み、担当書記官以外の書記官等が見ても容易に事情がわかるように改めた。	通って指定等の進行が停止している事件については、停止の理由や経過などを記録化し、意識して管理しなければ、意味なく長期化することもあるので、記録とともに一貫性や情報共有に優れた方法により管理できる状態にあることがらさしいことを理解させるよう、民事部主任会議等の機会も利用して指導する。

令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書

査察庁	被査察庁	事件種別	査察事項	指摘事項	査察の実施方法	原因分析	事務処理上の改善策	フォローアップ等
東京地裁	東京簡裁	民事	その他	進行停止事件のうち、破産による中断事件については、全件明示されているものの、「破産による中断等事件経過票(9室)」の用紙を使用している記録と使用していない記録とがあり、使用していても更新された情報の記載がなかった記録もあるなど、事務処理を統一することを提案した。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	破産中断事件の進行管理については、即時抗告事件を含め、 室内で一括管理とする扱いになっているところ。従前は、破産事件について上記の経過票を記録に挟んで管理していたことから、各書記官が独自に経過票を使用して代替していたものと思われる。	現在、進行停止事件の進行状況については進行停止事件管理表において進行管理を行っているところであり、今後、上記経過票は使用しないこととするともに、更新情報の入力漏れがないよう徹底した。	可能な限り統一した事務を行うことで、誤りや見落としを防ぐ効果があるので、統一の目的成しは効果を明確にして、部の運用を固められるよう指導する。
東京地裁	青梅簡裁	民事	その他	損害判決、和解調書などについては、裁判官の決裁前のものを利用して正本を作成しているが、正本作成における過誤防止の観点から、判決正本と同様に調書判決等の原本をコピーして作成することを検討するよう促した。	査察担当者が主任書記官等から聴取した。	従前行っていた事務処理を見直すことなく、自分がやりやすいように事務処理を行っていたものである。	今後、判決正本と同様に調書判決等の原本をコピーして作成することとした。	時間の経過や担当者の異動などによって、取扱が元に戻らないよう翌年度以降も注意する。
東京地裁	武蔵野簡裁	民事	その他	正本の作成方法について、2つあるうちの1つの係では、裁判官から正本作成用に印刷されたものを受領の上、これをコピーして正本を作成しているとのことである。東京地裁及び東京簡裁のほぼすべての裁判体で署名後の原本をコピーして正本を作成していることを紹介した上で、原本と正本の同一性を損なわないよう、従前の方法を維持することが適当か検討を促した。	査察担当者が主任書記官等から聴取した。	裁判官が、裁判官の署名押印部分のコピーが外部に出ることに抵抗があったものである。	署名後の原本をコピーして正本を作成する方法に変更した。	時間の経過や担当者の異動などによって、取扱が元に戻らないよう翌年度以降も注意する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	判決原本の交付が直前になることが多いため、言渡し前判決書の箱を利用せずに、記録と一緒に判決原本が保管されている。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	判決原本の交付が直前になることが多いため、記録とともに保管するのが便宜であると考えた対応であった。	言渡し前の内容漏えい防止等の観点から、より厳格な取扱の必要性を認識し、判決言渡り日まで同ボックスに入れて事件記録とは別に保管する方法に改めた。	時間の経過や担当者の異動などによって、取扱が元に戻らないよう翌年度以降も注意する。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	記録外書面として取り扱うのが相当と考えられる管轄計画書写しやファクシミリ送信書(差し替えされた官が記載)が事件記録の第3分類につづり込まれているものが見受けられた。また、数度にわたる閲覧等制限申立書が未陳述書類と共にいわゆる第4分類につづり込まれているものが見受けられた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	認識不足で、取扱を徹底できていなかった。	事件記録として取りこむ書面とそうでないものと確認をした。受領した書面については差替えはしないことも再度確認した(差し替えとして提出してきたも、先に提出した書面ともども事件記録に編入している。)。いわゆる第4分類には、特に裁判官(体)の指示がなければ、未陳述書面や取調べ未了の証拠を綴るよう確認した。	記録が正しく整理されることは、事件の安定した進行を支える重要な要素であるから、普遍的な事項として、民事部主任書記官会議や独断ミーティング等様々な機会を捉えて、首次席書記官から繰返し意識づけする。
東京地裁	青梅簡裁	民事	その他	記録ロッカー内に、すでに保存済みの事件について、秘匿措置の情報が記載された書面を事件記録からつづり替えたファイルのみが保管されていた。このファイルは、事件記録とひき舟にして保存すべきものであることから、直ちに是正するよう指示した。	査察担当者が記録ロッカーに赴き、記録ロッカーを実地検分した。	後に記録整理の際に、まとめて処理する予定であった。	直ちに当該事件記録とひき舟にして保存し、今後、秘匿措置の取られた記録については、直ちに同様の処理をするよう指導を正した。	記録が正しく整理されることは、事件の安定した進行を支える重要な要素であるから、普遍的な事項として、民事部主任書記官会議や独断ミーティング等様々な機会を捉えて、首次席書記官から繰返し意識づけする。
東京地裁	東京簡裁	民事	その他	「秘匿」と書いた大きな付箋は貼られていたものの、表紙に「秘匿情報あり」の朱書きがされておらず、分離した書類の綴られている場所に「秘匿情報の表示」の紙が貼られていなかった。記録外書面(表紙裏とのメール)が何の表示もなく綴られていた(いずれも指摘により直ちに修正された。)	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	前段は、「秘匿(希望)情報の管理について(東京簡裁版)」の参照が十分でなかったこと、後段は、記録外の書面を混然と記録の第3分類につづっていたことによる。	前段は、今後、該当案件の処理にあたっては、「秘匿(希望)情報の管理について(東京簡裁版)」を逐次参照し、これに沿った処理を確実に行うよう徹底する。後段については、書面を混然と記録の第3分類につづることなく、書面の性質を考え、記録の一部とするにあたらなければならない場合は、記録外とし、別保管とするなど、適切な措置を講ずる。	記録が正しく整理されることは、事件の安定した進行を支える重要な要素であるから、普遍的な事項として、民事部主任書記官会議や独断ミーティング等様々な機会を捉えて、首次席書記官から繰返し意識づけする。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	秘匿情報が表れている書類の取扱において、秘匿の判断が1年以上留保されている事案で、秘匿(希望)情報の記載された書類が、記録に綴られていて、「秘匿情報」との付箋が付いている状態であった。判断前の取扱いについて、部の取決めがない。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	秘匿情報の取扱いについての部の取り決めはあるものの、細かく判断前の取扱いや判断後の取扱いという場合分けはなく、それでも秘匿情報が記録に現れないように担当の裁判体で適切に処理していると認識していた。	記録中に裁判官の判断内容等が付箋で残っているのは適切でないことを書記官室に周知し、付箋ははがすこととした。その上で、判断に至る経緯を残す必要がある場合には、上司及び相手書記官には口頭で伝え、後任には引継書により、その経緯を残すこととする。	記録が正しく整理されることは、事件の安定した進行を支える重要な要素であるから、普遍的な事項として、民事部主任書記官会議や独断ミーティング等様々な機会を捉えて、首次席書記官から繰返し意識づけする。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	秘匿情報、マイナンバー及び記録外書面の管理に關し、裁判官に対して判断を求めた事項及び判断内容が記録中に付箋で残っており、閲覧時等に注意が必要だと感じた。	査察担当者が記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録を確認した。	裁判官に対して判断を求めたこと、それに対してどのような判断内容があったのかといった経緯を残そうとしたものであった。閲覧時等の際には記録を点検するので、付箋を間違いないがはがしている。	記録中に裁判官の判断内容等が付箋で残っているのは適切でないことを書記官室に周知し、付箋ははがすこととした。その上で、判断に至る経緯を残す必要がある場合には、上司及び相手書記官には口頭で伝え、後任には引継書により、その経緯を残すこととする。	必要な箇所により、その経緯を残すこととする。
東京地裁	東京簡裁 墨田庁舎	民事	その他	秘匿情報、マイナンバー及び記録外書面に関する裁判官の判断について記録化されていたが、その方法が部署内の申し合わせと異なるものがあつた。	査察担当者が申し合わせの提供を受け、記録ロッカーに赴くなどして抽出した記録と対照し確認した。	秘匿に関する事務処理を行うことがほとんどないこともあり、事務処理要領に沿った事務処理が徹底できていなかった。	各係のミーティングの際に事務処理要領に基づく事務処理を徹底するよう指導するとともに、ロッカー前ミーティングの際には、主査が事件記録を確認して適正な事務処理がなされているか確認することとした。	可能な範囲で統一した事務を行うことで、誤りや見落としを防ぐ効果があるので、事務を統一する目的と効果を明確にして、部の運用を定着できるよう指導する。

令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書

査察庁	被査察庁	事件種別	査察事項	指摘事項	査察の実施方法	原因分析	事務処理上の改善策	フォローアップ等
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	秘密情報、マイナンバー及び記録外書面の管理に関し、教職に秘密情報がある旨の記載はなく、ビニールカバー中に秘密申出があった旨の付箋が貼られているだけであった。	査察担当者が記録ロッカーに貼くなどして抽出した記録を確認した。	秘密情報の取扱いについての取組の取組めはあるものの、細かく何箇所かの取扱いや利用後の取扱いという場合分けはなく、それでも秘密情報が記録に現れないように担当の裁判官で適切に処理していると認識していた。	部内で改めて取扱いを確認して注意喚起した。指摘を受けた事件記録は、記録表紙に「秘密情報あり」を赤文字で記載し、秘密情報を含む書面を別添りにした。	記録が正しく管理され、必要な記録がルール通り明確に記されることは、事件の安定した進行を支える重要な要素であるから、普遍的な事項として、民事部主任書記官会議や勉強会・トレーニング等様々な機会を捉えて、書記官書記官から徹底して意識づけする。
東京地裁	東京簡裁	民事	その他	債権放棄付経過簿は作成されていたが、事件係の分で記載が漏れている帳簿(民事通常訴訟事件簿)があった。そのため、簡裁民事プログラムを使用している場合でも作成年月日の記載は必要であることを確認し、記載するよう注意喚起した。	提示を求めた帳簿について、査察担当者が確認をした。	記録係において、簡裁民事プログラム(簡裁民事事件用)のデータ自体が被査庁に代わるものについて、債権放棄付経過簿に記載する必要があるものとの認識していたものである。	記録係において、上記プログラムのデータ自体が被査庁に代わるものについて、債権放棄付経過簿に記載する必要があるものとの認識していた。また、民事訴訟内の帳簿窓口を提示することにより、困ったときにはいつでも気軽に相談ができる体制を取り、フォローアップを図ることとした。	
東京地裁	立川支部	刑事	その他	SDカードの管理について、SDカードを使用する書記官が、保管責任者である主任書記官を離れずに、直後から帳簿に貸出しの記録をして持ち出しており、返還時も同様の処理がされていた。	各担当書記官及び主任書記官からのヒアリング	管理の煩雑さから、原則と例外を逆に処理しているうちに、それが常態化し、貸出簿及び管理簿をつける行為のみに重点が置かれ、本来の目的が失われた結果によるものと思われる。主として管理における紛失の恐れや機密情報の欠損による管理の甘さによるものと考えられる。	各担当から、以下のとおり改善報告があった。 【フローの見直し】 -担当書記官から貸出簿の提出を受けた主任書記官は、両書記官に対し、専用ケースに収納したSDカードを貸し出す。返還時は、主任書記官に返還し、亡失等がないかを確認する。 -担当書記官が貸出簿に記載し、予め指定された場所にある専用ケースに収納したSDカードと共に主任書記官に提出する。主任書記官は、その内容を確認し、管理簿に所定事項を記載し、SDカードを担当書記官に手渡しで貸し出す。ただし、やむを得ない事情のある場合は、後に貸し出したことを適やかに報告する。 返還に関しては、担当書記官は、貸出簿に記載すると共にカードを主任書記官に渡し、主任書記官は枚数を確認のうえ、管理簿に所定の事項を記載する。 -独自に部で作成していた管理簿を廃止し、事務運轉通りに行うよう改めた。	検討結果について、報告を受けた。年度末更新後、早急に実施される事務調査において、実施状況を報告することとした。
東京地裁	東京簡裁	刑事	その他	事件書類である令状請求書原本、返還令状副りを保管しているロッカーが退庁時に施錠されていない。	主任書記官からのヒアリング	保存機種の「事件書類」であることは認識しており、施錠可能なロッカーに保管していたが、令状請求書原本を取り扱う事務や管理を主に事務官に任せていたこと、所収、施設する担当者を決めていなかったこととから、施設の徹底が図られていなかったこととあるが、これは、各担当令状請求が被査機密に関する重要な書類であることについて、書記官の認識が甘く、それを事務官に任せきりにしていたことが問題と考えられる。	査察当日から、上記書類が保管されているロッカーは、刑事4室の事務官が退庁時に施錠、退庁時に施錠し、主任書記官が直前の点検確認をする。 この取扱いについては、部員全員に周知した。 よう改めた。	検討結果について、報告を受けた。年度末更新後、早急に実施される事務調査において、実施状況を報告することとした。上記の改善策についてはそのとおりであり、事務官任せにせず、書記官においても事件書類、特に令状請求のような密性の高いもの等の管理の重要性について認識を促すよう、管理職において指導するよう依頼した。

【入力上の留意点】

類似の指摘事項をまとめて分析する場合など、複数の欄をまとめて記載する必要がある場合であっても、セルを結合せずに、同じ内容をそれぞれのセルに入力してください。
その他の具体的な記載方法は別添の入力例を参照してください。

令和元年度書記官事務等査察の査察結果報告書(フォローアップ用)

査察庁	被査察庁	事件種別	査察事項	フォローアップに 取り組んだ事項	取り組んだ改善策	フォローアップの内容	改善状況等	今後のフォローアップ等 (引き続き改善が必要な場合)
東京地裁	東京地裁 立川支部	民事	事件の進行管理に 必要な情報の共有 に関する事項	訴訟救助決定がされた事件につき、特段の理由なく 取立手続が進んでいないものがあった。 当事者への連絡自体が課題となっていた。	電話での連絡によらず、文書により手続を進める こととした。	現実的に取りうる方法により、手続を進め、実績を 作ることを促した。	方針に沿って文書により手続進行手続を進行した。ただし、実効回復調 査を3年後に実施する予定としており、当該調査の次回実施時期につい てはより近い時期に見直すべきとの意見を踏まえて再検討の余地が生 じている。	実効回復調査の実施時期や対応の方法に ついて、可能な検討をする。
東京地裁	東京簡裁	民事	その他	判決原本等の取扱いについて、事務の省力化の ため、確定記録の引継ぎ時に原本を廃らずに保 存していた。少なくとも平成22年度には判決原 本等を記録に添えて引き継いでいたようで、現在 も毎月1500件近くの事件が終了しており、その 件数の原本を繰る時間とはず時間と考えて、追 加削減のためにそのような方法を考えたのでは ないかと懸念される。	判決原本等を記録に添えては紛失の危険が あるため、引継ぎ事務の遅延防止という観点か ら、判決原本等を本来の綴り位置ではなく、確定 記録の末尾に添えて保管に引き継ぐことに重 て統一した。	左記のとおり、紛失の危険を無くし、かつ原本を繰 る手間とはず手間を最小限にする方法の提案。	査察での指摘を踏まえ、紛失等の危険性を十分に認識し、取扱い改善 されたものと考えていたが、十分に徹底されておらず、指摘を受けた不 相当な方法による原本紛失過誤が発生した。	取扱いの徹底がならず、査察の結果を生かせ なかったことを重く受け止め、指摘の重大性を 踏まえて繰り返し周知、確認を続けることとす る。
東京地裁	東京地裁本庁	民事	その他	判決等原本編目録、判決原本等保存簿の不 備、未作成。	平成31年1月15日現在での作業進捗状況と作 業が遅延している場合の理由、今後の計画を報告 させた。	進捗状況を踏まえた助言、指導等、計画に沿った 作業進捗の管理。	和解調書原本の編目録目録整備を中心に進め、およそ1400冊程度の対 応を終えた。特別保存対応が生じたためさらなる進捗は厳しい状況であ るが、地道に作業を進めている。	査察の機会も利用して、年に2回程度は進捗 状況を把握し、処理計画の管理に努める。特 別保存対応をはじめ、計画の見直しを迫られ る事情が生じている。少しづつでも進める状況を 維持するための対応を継続するとともに、今 後新たに同様の事態が生じることを懸念し、 より、直近の対応の徹底も怠らないようにする。
東京地裁	東京簡裁	民事	その他	判決等原本編目録、判決原本等保存簿の不 備、未作成、及び保存期間満了記録の廃棄の遅 れ。	平成31年1月15日現在での作業進捗状況と作 業が遅延している場合の理由、今後の計画を報告 させた。	進捗状況を踏まえた助言、指導等、計画に沿った 作業進捗の管理。	和解調書原本編目に判決原本が混じっていたり、作業人員の確保の問 題もあって、当初計画のとおりにはいかない現状はあるものの、地道に 作業を進めている。 部が関係等については作業規模が極めて大きく、作業にあたる人員確 保の問題などもあって遅れがちとなり、先を見通しにくい状況となってい る。場合によっては、計画の見直しを検討せざるを得ない。 豊田庁舎については、令和3年度中の全作業完了を目指して進行中であ る。	査察の機会も利用して、年に2回程度は進捗 状況を把握し、処理計画の管理に努める。特 別保存対応をはじめ、計画の見直しを迫られ る事情が生じている。少しづつでも進める状況を 維持するための対応を継続するとともに、今 後新たに同様の事態が生じることを懸念し、 より、直近の対応の徹底も怠らないようにする。
東京地裁	八王子簡裁	民事	その他	判決等原本編目録、判決原本等保存簿の不 備、未作成及び保存期間満了記録の廃棄の遅 れ。	平成31年1月15日現在での作業進捗状況と作 業が遅延している場合の理由、今後の計画を報告 させた。	進捗状況を踏まえた助言、指導等、計画に沿った 作業進捗の管理。	判決等原本編目録、判決原本等保存簿の不備、未作成については、 処理計画の本年度分につき予定通り進め、今年度予定分をほぼ終了し ている。廃棄についても、本年度実施予定分以降のものを残すのみとし ている。	査察の機会も利用して、年に2回程度は進捗 状況を把握し、処理計画の管理に努める。特 別保存対応をはじめ、計画の見直しを迫られ る事情が生じている。少しづつでも進める状況を 維持するための対応を継続するとともに、今 後新たに同様の事態が生じることを懸念し、 より、直近の対応の徹底も怠らないようにする。
東京地裁	武蔵野簡裁	民事	その他	判決等原本編目録の未作成。	平成31年1月15日現在での作業進捗状況と作 業が遅延している場合の理由、今後の計画を報告 させた。	進捗状況を踏まえた助言、指導等、計画に沿った 作業進捗の管理。	順調に作業が進んでおり、年度内に終了する見込み。	査察の機会も利用して、年に2回程度は進捗 状況を把握し、処理計画の管理に努める。特 別保存対応をはじめ、計画の見直しを迫られ る事情が生じている。少しづつでも進める状況を 維持するための対応を継続するとともに、今 後新たに同様の事態が生じることを懸念し、 より、直近の対応の徹底も怠らないようにする。
東京地裁	東京簡裁	刑事	システムに入力する 事件二重登録す べき情報に関する 事項	システムからの の打ち出しにつ いて、1年に1回の割合としていたが、事件種類の 性質上印刷の頻度について検討するよう促した。	必須帳簿としての備付けの在り方の検討	事務調査、査察での確認	検討したものの、1年に数万件という請求がある中で、 への記載などの対応を考慮した結果、事務効率の観点から、こ れまでどおりの処理とすることとした。	今年度の査察時に意見交換を行い、引き続 き検討を依頼した。 地道としては、今後、被査察庁に対し、 の備付けのあり方として、最低限1か月に1 回はシステムから打ち出して備え付けること とし、最終的に当該年度分のがすべ て入力できたとことで再度打ち出し、完全な とするよう指導する。